

援農ボランティア 「楽の会」

小平市

平成30年1月調査

1 活動の目的

援農ボランティア活動を通じ、地域農業の活性化に寄与し、会員相互の親睦を深め、知力維持と健康増進を図る。

2 活動が始まったきっかけ

体験型農園「みのり村」での学習において東京都内の農業は後継者不足や高齢化で耕作農地が年々減少傾向にあることを知り、少しでもその歯止めをし、小平らしさを維持したいとの思いを同じくする仲間と立ち上げた。(2013年4月1日設立)

小平市とJAに相談して、現在の農園主を紹介してもらった。

3 会員資格

特になし

4 会員の募集方法

会員の知人、友人。市報などでの募集はしていない。

5 入会金・年会費等の有無

なし

6 会員数

15名

7 会員の特徴

60～80代。(男性13名、女性2名)

落葉の堆肥作り、寒おこし、石灰・堆肥の投入、畝立て、マルチシート張り、播種、定植、支柱立て、寒冷紗張り、雑草除去、収穫、販売に至る全作業を通じて行った結果の収穫を最大の楽しみとしている。

8 行政等からの支援の有無

現在はなし。(会の発足当初に援農ボランティアとして小平市から1回だけ支援があり、その時は作業チョッキ・長ぐつ・軍手・靴下を購入しました。)



9 活動概要 (援農ボランティア)

支援している農園：小平市内の個人農園(1農家)

原則、週2日(火曜日、土曜日)9時～12時活動

但し、農繁期は販売のみ木曜日も行っている。



平成28年度 活動実績

	日数	のべ参加人数
4月	8日	68名
5月	6日	51名
6月	7日	62名
7月	9日	66名
8月	3日	25名
9月	7日	50名
10月	9日	61名
11月	8日	66名
12月	9日	70名
1月	8日	63名
2月	7日	45名
3月	8日	62名
合計	89日	689名

10 現在、運営・活動で大変に感じること、困っていることなど

あくまでもボランティア活動なので無償で行っているが、作業衣、長ぐつなど消耗品は実費でまかなっている。

全員年金生活者なので行政からの多少なりの支援が得られれば助かります。

11 今後の方向性

今までの活動を継続する。農業生産を維持したい農園主の思いを援農ボランティア活動により支援し、小平市の地域農業の活性化と地産地消に貢献したい。会員も年々高齢化するので、声を掛けあって引きこもりを防止し、体力相応の作業を通じ健康増進に努め、会員同士の交流も更に深めてゆく。

12 事務局もしくは会員からひとことメッセージ

野菜を作る作業を通じ、収穫出来るまでには、いかに多くの手間が掛かるかを知り、その苦勞の割に価格が安く提供されていることも知ってもらいたい。地産地消を推奨したい。

【近況】

- 昨年12月に4回、大きなビニール袋に玉川上水沿いの落葉を集めたものを農園内の堆肥貯蔵場まで運搬し、米糠、水をまいて堆肥の仕込みを済ませ、12月23日にボランティア活動納めとした。
- 今年は1月8日にボランティア活動を開始し、牛ふん堆肥の受け入れ準備を行った。
- その後、活動日には、作付けした野菜の残処理、マルチシート剥ぎ、耕作、苦土石灰、牛ふん投入など、順次春・夏野菜の作付け準備を進めている最中です。
- 工夫と言えるかわかりませんが、土中の地温を利用して育苗ポットに播種した種の低温保護、生育促進を図っています。

